

1. 評価報告概要表

作成日平成 20年 2月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200047
法人名	有限会社 大栄水産
事業所名	グループホーム いこい
所在地	群馬県高崎市下滝町370-3 (電話) 027-395-7720

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年2月19日

【情報提供票より】(19 年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 10人, 非常勤 0人, 常勤換算	7.5人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての,	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.7歳	最低	74歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	月岡内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれ、緑豊かな田園が広がっている高崎市郊外の東部に立地し、近くには群馬の森、春の枝垂れ桜で有名な慈眼寺等がある。天気の良い日は広い芝生の庭先で入居者同士お茶を楽しみ、ゆったりとした時間を過ごしたり、近所に散歩に出かける等をしている。また美味しい米、新鮮で安全な食材で料理して、食事を楽しんで頂けるように常に考え食事作りをしている。そして認知症専門医の訪問診療が月1回あり、アドバイス、指導等をして頂いている。職員は理念「愛とやすらぎ」を考え、ひとり一人の入居者の日常生活に具現化し、支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての外部評価であるので、次年度に期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての自己評価は、施設長、管理者が行い、評価の一連の過程は職員と共に進められている。外部評価の結果は、職員や運営推進会議に報告をしていく予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者の健康や日常生活状態、利用状況を報告し、出席者からの意見が出されている。開所以来初めての自己評価及び外部評価を実施しての結果を会議で報告して、具体的には改善経過のモニター役を担ってもらいようにし、活発な意見を出されて、意見が運営に反映されるよう取り組みを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安については、意見を引き出せるよう家族の来訪時や電話連絡の際に働きかけを行ったり、意見が出し易いよう目安箱を設置し、運営に反映されるよう取り組みをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方が、採れた季節の野菜をホームに届けてくれたり、ホームの庭先で野菜作りを利用者の方へ教えに見えたり、地域住民との交流に努めている。また、専門学校の学生がボランティアとして訪問している。ホームは、開設以来、高崎市の中学生の体験活動先として登録する等積極的な働きかけをしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本グループホームは、平成18年11月に開設される。地域密着型サービスの意義を確認し、家庭的な環境と地域の方との交流の下で「愛とやすらぎ」を理念に、明るく、楽しく、安心して生活ができるよう心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、「愛とやすらぎ」とは何かを考え、理念の実践の姿勢として、目配り、気配り、思いやりを3つの柱に捉えて、日々生活支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して地域の行事等の情報を得ているが、地域の行事が極めて少ないため、参加する機会が少ないのが現状である。しかし、近隣の方が野菜を届けてくれたり、ホームの庭続きの農園の野菜作りを指導してくれる等、地元の方との交流は行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、運営者と管理者が中心に行い、評価の一連の過程は職員と共に進められている。外部評価の結果は、職員や運営推進会議に報告をしていく予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回開催されている。会議では、行事や日常生活状況等を報告している。その際に家族の方が多く出席されるよう会議案内を送付し、家族の意見交換の時間も確保されて、親交が深められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口には、事業所の実情やケアサービスの取り組み状況等を報告し、直面している運営やサービス課題の解決に向けて相談している。また、運営推進会議の結果も報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「いこい通信」に、利用者のホームの暮らしぶりや行事の様子等を写真入りで掲載し、配布している。健康状態等は、家族の訪問時に口頭で伝えたり、必要により電話等で報告をしている。基本的には金銭は預からず、必要の場合は家族に連絡し、立て替えて後日家族より支払われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口は、利用案内で説明し、玄関わきの壁に掲示している。苦情が言いやすいように目安箱を設置し、運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が少ない。やむを得ず離職がある場合は、速やかに代わる職員を補充し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、段階に応じて管理者や職員に、県や市の研修を積極的に受けさせている。職員は、研修報告を提出し、グループ内会議において研修報告している。また日々のケアのなかで、問題点や介護サービス等について、スーパーバイザーである上司の意見やアドバイスを受けて、介護の質の向上に努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「いこい」開設前に、県内の2ヶ所のグループホームと小規模多機能の施設で研修と交流する機会があった。県や市の研修に参加し、サービスの向上をさせていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族にホームを見学して頂き、雰囲気を確認してもらっている。また生活歴を理解するために、家族等と話し合い、相談を重ねて安心して入居ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、食事の盛り付けや後片付け、掃除等を職員と一緒にやっている。利用者から、昔の風習や古い諺を教えて頂いたり、時には「元気がないけど、どうしたの」と優しい気遣いや励ましの言葉をもらったり、共に支えあう関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者に声をかけて、言葉や表情などから真意の把握に努め、時には、入居者間の感情の動き等にも配慮して支援をしている。また、ホームでどのように暮らすことが最善なのか家族から情報を得て、本人の思いの共有をしていくよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホームで入居者がより良く暮らせるように、入居者や家族を中心に、ホームの関係者、職員等から情報を得て、話し合いがなされ、意見等を反映した介護計画を作成している。介護計画書は、家族等に報告し了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は情報を確認し、入居者や家族の要望を聞き、ケア関係者の最新の情報や気づき、変化の兆しがある場合は必要に応じて本人、家族、関係者と連絡をとり、早急に現状に即した新たな介護計画を立て、随時計画を見直している。安定しているような利用者の場合も、月に1回程度は状況を確認し記録している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が通院に同行できない時には、入居者の通院支援をし、その時々柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族の希望するかかりつけ医となっている。また月に1回認知症の専門医「月岡医師」の訪問診療があり、話し合いや情報のやり取りを通じて、複数のかかりつけ医と関係を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方を、早い段階から家族の方針を聞き、職員は医師と相談をし、終末期ケアのための支援について話し合いをしている。全員がその人の重度化や終末期のあり方の共有を図るとともに、その対応にむけて努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図ると共に、入居者を父親、母親のように尊敬の念をもって接している。また、入居者同士が家族のように、思いやる人間関係を大切にして、入居者の誇りを大切にするとともに、入居者個々の考え方を尊重し、プライバシーへの配慮にも心がけている。各種記録等の個人情報は、情報保護の徹底を運営規		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、編物、お針、カラオケ、散歩等、一人ひとり好きなことをしてその人らしく生活できるよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、入居者の当番制になっており、入居者の状況にあわせて、職員と一緒に盛り付け、準備、後片付け等をして、本人の持てる力を発揮することが、喜びや楽しみになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日を決めているが、入浴希望の有無の声かけを毎日行って、入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否する方には、笑いをさそうようなコミュニケーションをし、タイミングに合わせて入浴してもらうよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、職員と一緒に、食事の準備や後片づけ、掃除をしている。また、ホームで喫茶「いこい」のお茶会を開き、一人ひとりの希望に添って、コーヒーや紅茶、ココア等の飲み物で、ひと時を楽しんで頂いている。また、編み物や針仕事、絵を描いたり、カラオケをしたり、散歩等の楽しみごとや気晴らしの支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日や入居者の気分により、庭先にある長椅子でティータイムを過ごす等、戸外に出ることで気分転換をしている。また、近所に散歩やりんご狩り等のドライブにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び管理者、職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、居室、玄関等には鍵をかけていない。入居者は、日中、自由に庭先に出たりしている。玄関や入り口等には安全と保護をふまえて、人の出入りを知らせるセンサーを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力により、避難訓練を実施している。その折に、緊急連絡網による連絡方法、通報訓練や避難経路や避難場所の確認、救急蘇生法等を学んでいる。また近隣の方には、災害時の協力を依頼している。職員は、日頃から意識して、災害時に速やかに誘導できるように避難経路を確認している。食料や水は、備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好を考慮しながら献立を作り、食事量や水分量をチェックし記録して、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール及び居室は、ゆとりのある広さで、ホールの天井は高く自然光が差し込み、明るく開放感のあるゆったりとした空間となっている。トイレは足腰の機能低下を配慮した高目の洋式便座が設置され、介護者の優しい心づかいが見られる。季節の花や雛人形が飾られ、季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は7.5畳と広く、入居者や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、大切にしている仏壇を置いたり、家族との楽しい思い出の写真、作品等を飾って、入居者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		